

中東小だより

いそがしくても・・・

校長 松原 好子

校庭の木々がやわらかな緑に包まれ、子供たちの笑顔もますます輝く5月になりました。新しい友達や担任との出会いに胸をふくらませながら、毎日を一生懸命に、楽しく過ごしています。今月は6年生の修学旅行が実施されます。全員が『事故なし 怪我なし 病気なし』で過ごせることを願っています。

さて、先日、都内へ電車に乗って買い物に出かける機会がありました。帰りの電車の出来事です。一番前の車両に乗りました。空いていたので運転席が見える窓に立つと、若い女性の運転士の方でした。「女性の運転士さんなんて、まだまだ珍しいんだろうな…」「かっこいいな…」などと思いつつ、運転の様子をぼんやり眺めていました。すると、その運転士さんは、正面に向かって手を振りました。手を振った方向を見ると、線路の上に架かる橋の上に、仲の良さそうなおじいさまと車椅子に乗ったおばあさま(ご夫婦でしょうか)が小さく手を振っていらっしゃいました。ほんの一瞬の出来事でしたが、なんて素敵な運転士さんなんだろうと心がじわっと温かくなりました。そして次の駅のホームに入った時に、幼稚園の年少さんくらいの小さな男の子が一生懸命手を振っています。その男の子にも、手を振り返していました。



この出来事から、4月がスタートして雑多なことに追われ、『忙しい』を理由に心のゆとりをなくしていたことに気づかされました。

『忙しい』という漢字は、立心偏(りっしんべん=心という意味)と亡くす(=失う)という字を合わせた字です。忙しい時は、心の余裕が無くなり、他への思いやりや配慮も欠けてしまいがちです。忙しい時ほど、この運転士さんのように周りに気を配り、優しい行動がとれる人間になりたいと痛感しました。

子供たちも新しい学年、新しいクラス、慣れないこともたくさんある中、毎日忙しく過ごしています。そんな忙しい時だからこそ、子供たちにも優しさや思いやりの気持ちを忘れることなく、心にゆとりをもって笑顔で過ごしてほしいと思います。ぜひ、保護者のみなさまには、子供たちが少しでも余裕をもって過ごせるような声かけや励ましの言葉をお願いします。